

白井 勝也 (しらい・かつや) 先生

株式会社小学館 取締役副社長

【現職】 株式会社 小学館 取締役副社長

【本籍地】 東京都

【生年月日】 1942年 生まれ

【略歴】

昭和43年 3月 立教大学 文学部 卒業

昭和43年 3月 株式会社 小学館 入社

昭和56年 5月 ビッグコミックスピリッツ 創刊編集長

平成6年 5月 株式会社 小学館 取締役就任

平成11年 5月 同 社 常務取締役就任

平成13年 5月 同 社 専務取締役就任

平成21年 5月 同 社 取締役副社長就任

現在に至る

【参考文献】「電子書籍の時代は本当に来るのか」

歌田明弘著 ちくま新書発行



### 《講義概要》

出版業界の最前線で活躍する、株式会社小学館取締役副社長の白井勝也氏が、出版産業の構造改革について講義を行った。

講義ではまず、「コンテンツ」の重要性について分かりやすく説明し、コンテンツ産業は“文化産業”にとって大切であり、産業としても大きな市場であることを伝えた。その後、コンテンツ産業の現状について、詳細な資料を提示し、「ゲーム」「音楽・音声」「映像」「出版・新聞」の4分野に分類して説明。分野ごとの進行度合いに違いはあるが、あらゆるコンテンツがデジタル化に向かっている現状を示した。その一方で、デジタル化には様々なリスクが伴い、コンテンツ産業の縮小化を招いていることを指摘した。

さらに、出版産業の現状や今後の課題、電子書籍の実態について具体的に解説。電子書籍の本格的な到来に備え、デジタル化に対応した新たなビジネスモデルの構築や著作権隣接権の設定などが求められていることを示した。デジタル化の進む中での出版産業のあり方について、必要な知識と新たな視点を与える講義となった。

## 《受講生の感想》

●様々なコンテンツにおいて、デジタル化は大きなデメリットを多く抱えていることを痛感しました。まだデジタル化は始まったばかりなので、これから法律やビジネスモデルがどんどん変化していくことでデメリットを解消できると思います。また、この電子書籍元年と呼ばれる年にこうしてデジタルコンテンツについて学んでいる私達が、より良いシステムについてしっかり考え、リードしていかなければならないと感じました。  
立命館大学・映像学部・2年生

●音楽産業におけるデジタル化の進展についてはよく学んできましたが、音楽産業だけでなく、その他のコンテンツにおいてもデジタル化が進展していることを詳しく知ることができました。消費者側から考えるとデジタル化は良い面ばかり見えます。しかし海賊版や権利の問題なども存在することを学び、デジタル化社会に各産業がこれからどのように活動していくのが気になります。  
立命館大学・産業社会学部・3年生

●コンテンツがないといくらかハードがあっても意味がないことを知り、納得した。音楽がデジタル化し、違法ダウンロードが増えたように、電子書籍も海賊版が増え、問題になっているので、著作権などの知識を全世界の利用者に理解してもらう必要があると思った。  
立命館大学・産業社会学部・1年生

●コンテンツが現代のメディア市場において、どれだけ重要なものなのか、コンテンツ不足の問題も含めてとても勉強になりました。ネット社会が発達することは私達消費者には便利で良いことかもしれないが、コンテンツ産業は縮小化されることとなる。それを防ぐために著作権・著作隣接権の設定や海賊版対策のためのセキュリティ強化などを急速に進めることが必要であることが分かった。

立命館大学・産業社会学部・3年生

●今コンテンツ産業における多くの産業においてデジタル化が進行している。しかし、デジタル化が進み利便性が増す一方で、それぞれの産業においてデジタル化に伴うリスクも存在する。コンテンツのデジタル化について深く考えさせられる機会となりました。

立命館大学・産業社会学部・3年生

●「読書のライフスタイルの変化に合わせた対応を出版社は求められる」という言葉にとっても納得しました。デジタル化やインターネットの普及で私達の読書環境はとても変化してきました。ジャンルや年齢層においてもベストな形で提供すること、多様な選択肢を提供することが大切だと思います。

立命館大学・産業社会学部・4年生

